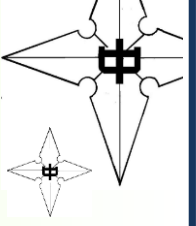


	<h1>南浦和中だより</h1>	
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33	TEL 048(863)0753	
FAX 048(836)1589 さわやか相談室直通	TEL 048(837)5909	

『けんかをやめて』

校長 おお こうち のり かず 大河内 範一



ある秋の日、夫婦げんかが勃発した。詳細は以下の通りである。日曜日の昼時、家族全員が揃っていたので、私が「焼きそば」を作ることになった。麺の袋に書いてある注意書きを読んでみると、具材に肉を入れることになっていたの、妻に肉があるか聞いてみたところ、「肉は冷蔵庫に入っているから半分使っていよいよ」という回答を得た。そこで私は冷蔵庫を開け、すぐ目の前にあった『牛肉』を半分入れてジュージューと炒めていた。

調理現場をのぞきにきた妻が、投入されている肉の色を見て、自分の想像している色と違うことに気が付いた。妻は牛肉のすぐ下にあった『豚肉』の使用を想定していたのだが、私が牛肉に手を出してしまったことにより、言い争いに発展。戦いは激化した後に、冷戦状態に突入したのである。

妻の主張 焼きそばの具材といえば豚肉だと思っていた。牛肉は計画的に購入してあったので、今使われてしまうと、計画通りに行かず本当に困ってしまう。

私の主張 肉の種類はどれを使うのか指定してくれないとわからない。焼きそばは、牛肉のほうがよりおいしくなると思う。

その後、お互いに口を利かない状態が続いたのだが、約3日後に停戦。和平について交渉し、通常通りの関係に戻った。とはいえ、短期間ではあったが、家庭内に漂っていた重苦しい空気はとにかく嫌で、帰宅するのが億劫だった。

妻の後日談 本当は1週間くらい口を利かないでいようと考えていたのだが、3日で終わってしまった。(家庭科の教員なので) ちょうど調理の内容を扱う授業があったので、焼きそばに入れる肉の種類について生徒に問いかけ、生徒の賛同を得ていた。

私の後日談 このまま口を利かない暴挙が続くのであれば、週末はふらりと一人旅に出掛けて、豪華な物でも食べようと画策していた。ちょうど職員会議があったので、今回の案件を報告し、職員の共感を得ていた。

まあ、けんかをしたものの決別したい訳ではなく、最終的にはどんなふうにも元に戻るか、落しどころはどうするかと、それぞれが考えていたので丸く治まった。とにかく、どんな状況のときでも、家族だろうと他人だろうと、相手へのリスペクト(敬意)を忘れないようにして、気遣いや配慮を持ち続けることが大切なのだと思う。

今回の教訓

- その1 些細な事からけんかが起こるので注意。しかしながら、けんかはよくない。
- その2 焼きそばに入れる肉の種類は何だっていい。
- その3 やっぱりママは笑顔のほうが似合うよ!